

高岡教区教務所 電話 0766-22-0887 FAX0766-21-5152
メール info@takaoka-hongwanji.jp

☆「高岡教区全戦没者を悼み

平和を願うつどい二〇一九」開催

八月七日（火）午後六時半から、『全戦没者を悼み
平和を願うつどい二〇一九』が、西本願寺高岡会館礼
拝堂で『みんなの反戦歌〜歌に込められた非戦平和への
願い〜』というテーマで、第一部「全戦没者追悼法
要」、第二部「平和を願うつどい」が約百二十名の参
加で開催され

た。第一部では
西岡孝了教務所
長の調声のも
と、第一・第二
ブロック（水
波・関野・伏
木・新湊・五
位・射水組）の
代表出勤をいた
だき、教区内役
職者や各教化団
体代表者をはじめ
め、「つどい」に
参加された方々
全員が正信偈の
お勤め中に焼香
をされた。



第二部で

は、音楽活動
に縁のある教
区内の僧侶・

門信徒のみな
さんに呼びか
け、それぞれ
が選ぶ非戦平
和への歌、反
戦歌（プロテ
ストソング）
をテーマに私
たち自身で作

り上げる内容で音楽講演会が行われ、教区コーラ
ス「瑠璃の響き」や僧侶バンド「#Tendo
n」をはじめとした個人（四名）や団体（三団
体）が、非戦平和を願いそれぞれの反戦歌を歌っ
た。この反戦歌は誰もが知っている曲や初めて聞
く曲等様々であり、参加された方は口ずさんだ
り、聞き入ったりした。また、出演者が歌の途中
で選んだ歌に対する思いや現在の社会状況の話を
され、深く聞き入る場面もあった。

参加者からは、「いろいろな反戦歌があることに
気付かされた」「歌手以上の声を聞かせていただき
感動した」「今回のつどいは斬新で良かった」等の
声が聞かれた。



◆中央教修了者のつどい開催

去る七月二十一日(日)西本願寺高岡会館において「中央教修了者のつどい」(高岡教区門徒推進員連絡協議会主催)が開催され、門徒推進員二十五名が参加し、学びを深めた。

今回のテーマは「組活動の活性化のためには」

お寺の法座だけでなく、組においてもあらゆる教化活動が縮小し、既存の教化団体もかつての勢いを失っている厳しい状況の中で、組活動を再び活性化し、教団の再生につなげていくために、どのような取り組みができるのかを考えることをねらいとして開催されたもの。

はじめに門徒推進員の山下義彦さん(五位組門徒推進員世話役)が問題提起され、部落差別や非戦平和・人権問題は、戦争協力と体制の正当化に加担してきた教団の歴史において見過ごされてきた問題であるが、それらは単なる社会問題ではなく、阿弥陀如来の教えと願いに生きる浄土真宗の門信徒にとって信仰上の重要課題であり、同朋教団の再生をめざして、それらの課題に僧侶と共に取り組むのが門徒推進員であったと提起された。

その上で、現在はSNSなどによって誰でも広範囲に呼びかけや情報共有をすることが可能になった時代なので、今までの地域のネットワークだけに頼った声かけだけでなく、積極的にそれらのツールを広報や組における情報共有に取り入れては、と提案。また、組の行事に参加するだけでなく、企画段階から関わることが重要

とされ、そのために組の行事に普段から顔を出し、僧侶と顔をつなぎ信頼関係を構築していくことが大事では、と提起された。

問題提起を受けた分散会の報告では「門徒だけでは組活動はできないので、僧侶との連携が問題となる」「どの組も組活動は停滞ぎみであり、閉塞的な状況にある」などの意見や「組活動に参画したくとも、僧侶だけで決めているので、門徒推進員がその中に入る余地が無い」「組活動の中核を担う僧侶、組長や組主幹がいないこの場でどんなに意見を言ったとしても何も変わらないのではないか」との厳しい意見も出された。

助言では、講師の池内瑞雄さん(新湊組組長 円徳寺住職)が、

今回の分散会での意見を組長や組主幹の集まる会議などでも共有していくことを事務局に確認した上で、新湊組における組活動の取り組みを紹介。新湊組で開催した連続講座「真宗入門講座」は寺院ではなく、一般のイベントホールを会場にしたが、受講者の数は予想を大きく上回り、それも今まで寺院と関りの無かった方が多数受講されたことを例に挙げ、仏教の話を聞いてみたくとも寺院とのつながりまでは持ちたくない、という人も多い現状で組活動の広がりを考えるならば、寺院以外の会場という選択肢もあるのではと提案された。また、組活動の活性化のためには僧侶と門徒の連携が何より大事ではあるものの、僧侶も一人一人考え方が異なるため、必ずしも協力的ではない人もいるが、組の中でも耳を傾けてくれる、協力してくれる僧侶は必ずいるのでそういった僧侶と連帯していくことが重要ではないかと助言された。

◇御同朋の社会をめざす運動のコーナー

第一回「御同朋の社会をめざす運動」中央委員会報告

七月二十三日、本願寺伝道本部において、二〇一九年度第一回「御同朋の社会をめざす運動」中央委員会が開催されました。

はじめに、「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)・重点プロジェクトの現状について報告がありました。第二回重点プロジェクト大賞(東京教区の自死問題への取り組み)、「子どもたちの笑顔のために募金」(七月二十二日までに約九〇〇万円入金)の報告とあわせて、宗門重点プロジェクト推進要綱案が本中央委員会において初めて提出され、今年十月から各教区に目標推進に向けた「重点プロジェクトリーダー」を新設することが示されました。重点プロジェクトリーダーは教区の実務担当者として計画の立案や研修会への出講を担当(事務関係費として助成金五万円を交付)。任期は今期が終わる三月末日まで。二〇二〇年度からは組単位でもリーダーを置く予定であるとの説明がなされました。高岡教区ではかつて二度にわたり教区専従員や教区・組相談員制度の復活を求める意見具申を提出した経緯があり、「運動全体の中心的な役割を担っていた専従員、相談員を廃止し、制度が復活しない理由の説明がないまま、今、運動の一部に過ぎない重点プロジェクトのリーダーを置くのは宗派の方針として矛盾しているのではないか」と指摘しました。重点プロジェクト推進室・宇野部長からは「あくまでも中央宗務機関と教区・組の一体的な運動をめざすための体制づくり」との返答のみで、こちらの指摘に対する明確な回答は得られませんでしたが。

続いて、「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)総合基本計画・重点プロジェクトの改定について協議が行われました。次期総合基本計画・重点プロジェクト案については早期に各教区へ周知し、八月から始まる公聴会で意見聴取したうえで、今年十二月の第二回中央委員会にて最終案を協議し、宗会を経て三月に決定するとの見通しが示されました。

今回は長野、備後、高岡の三教区から「意見具申」がありました。長野教区からは、運動計画の早期通知と差別をはじめとする社会の課題を担う

念仏者となる運動を全教区で共有するための教材の作成を求める「意見具申」、備後教区からは、大嘗祭に対する宗派としての研修資料の作成と共に学ぶための機会を設ける取り組みの表明を求める「意見具申」、そして高岡教区からは、大嘗祭に対する宗門としての見解を表明することを求める

「意見具申」(別紙)が中央委員会に提出され、協議が行われました。内容についての補足説明の後、「見解を表明することは宗門内外に説明責任を果たすことでもあり、見解を出さないことは消極的であれ大嘗祭を支持する意思表示である」と再度口頭にて申し述べ、総局の真摯な対応を求めました。それに対して総合研究所の満井副所長から、「大嘗祭は現憲法との整合性がなく、法的に問題がある」との見方が述べられ、阿部総務からは、大嘗祭のあり方には問題があるとして「学びの資料を『宗報』に掲載する」意向が示されたうえで、「宗門としての統一見解については慎重でありたい」との回答がなされました。また、高岡教区が問題視した五月に聞法会館で開かれた日曜講演「装束に見る『御代がわり』」については、所管である本願寺からの「あくまでも日本の(着物)文化を学ぶことが目的であった」とする見解が重点プロジェクト推進室部長より代読されました。

石上総長から「本願寺派は政治団体でも社会運動団体でもない。仏法に基づいて念仏者として生きることが重要。政治的な課題については言及しない」との発言がありました。私は「政府の動向に言及しないことも政治的な態度ではないか。仏法が脅かされている時に声を上げないでどうやって仏法に生きることができるのか。そのような教団に存在意義はあるのか。かつて過ちを犯した教団の中核にいる者として見解を表明することはできるはず」と指摘しました。それに対し石上総長は、「我々は念仏者であると同時に主権者。政治との関わりなしでは生きていけないことは承知しているが、宗門内の意見は多様である。決して逃げているわけではない」と述べられました。

教えに基づく教団のあり方とは何なのでしょうか。教えに生きる念仏者とはどういう姿なのでしょう。おかしいことを「おかしい」と言える教団であるために、教区・組・寺院の現場から声を上げ続けていかねばならないと感じます。

【教区委員会副委員長・中央委員会委員 林 史樹】

◇これからの日程（8/14～9/14）◇

8月	教区・財団行事	教化団体・組行事
14	常例法座 教務所盆休み（～18）	
19	聖典セミナー	
20	僧侶研修会スタッフ研 得度習礼講習会（～21） 福光教堂	
22	同朋養成者フィールドワーク （～23）	
24		仏壮研修会 ブロック保育大学講座 （～25）石川教区
26		連区布教使研修会（～27）
28		長寿苑ビハーラ活動
30	将来構想委員会専門部 会	世界仏教婦人会大会 （～9月5日）北米
9月		
4		少年指導者研修会（～5） 富山教区
5		龍谷教学会議例会 富山教区
6		ヤスクニ委員会
7		連区ビハーラ研修会
9		連区仏壮連絡協議会 （～10） 岐阜教区
10	聖典セミナー	
11	僧侶研修会（第1回目）	
12	北陸ブロック組長会（～ 13）福井教区	
14	常例法座	

ラジオ放送～西本願寺の時間～

『みほとけとともに』

北日本放送（KNB）・73.8kHz.

◎毎週土曜日（本山制作）午前6:15～6:25

□第2・4日曜日（富山・高岡制作）午前6:00～6:10

◎8/31（土）：山口 紫紀氏

（本願寺派布教使・兵庫県西信寺副住職）

「阿弥陀様がここにいるよ」

◎9/7（土）：山口 紫紀氏

（本願寺派布教使・兵庫県西信寺副住職）

「手を合わせる機会を」

□9/8（日）：未 定

（富山教区）

◎9/14（土）：山口 紫紀氏

（本願寺派布教使・兵庫県西信寺副住職）

「心と体を癒せるお寺」

◎9/21（土）：坂上 良氏

（本願寺派布教使・高知県受法寺衆徒）

「みほとけに導かれて」

□9/22（日）：未 定

（富山教区）

◎9/28（土）：坂上 良氏

（本願寺派布教使・高知県受法寺衆徒）

「未 定」

☆お知らせ☆

『法輪せんべい』販売について

お茶菓子やご法事・ご法座の折のお扱いにいかがでしょうか。お申し込み先は下記のとおり。

FAX. でのお申し込みも承ります。どうぞご利用下さい。

一袋二枚入りで価格は次の通り

・特大箱（170袋） 8,300円

・1組（10袋） 500円

お申込み先は・・・高岡市東上関446 高岡教務所内

（寺族青年会担当）

Tel. (050) 5587-7708(代表)

メール hourin18@gmail.com

【西本願寺高岡会館9月の常例法座】

ご講師： 丸山文雄氏

（新潟教区）

ご講題：『お浄土に生まれる』とは

午後1時20分頃からビデオ上映、2時からお正信偈六首引のお勤めです。どうぞお誘いあわせてお参りください。